

SJクイズ

[問題編]

Q1

平成24年の交通事故件数（66万5138件）を事故類型別にみると、最も多い事故類型は次のうちどれでしょう？

- ①正面衝突 ②追突 ③出会い頭衝突 ④右折時衝突



Q2

平成24年の交通事故死者数は4411人と12年連続で減少しました。では、高速道路における死者数の状況は次のうちどれでしょう？

- ①3年連続で減少した ②2年連続で減少した
③2年連続で増加した ④3年連続で増加した

Q3

平成24年の警察庁とJAFによる調査では、高速道路において後部座席同乗者のシートベルト着用率は何%だったでしょう？

- ①約55% ②約65% ③約75% ④約85%

【使用上の注意】

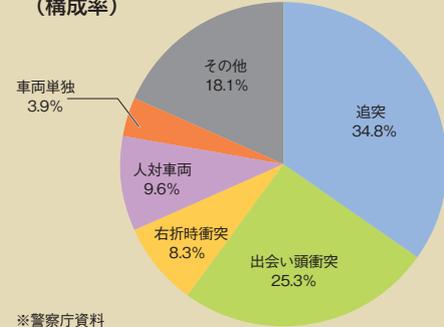
●営利目的での利用はおやめください ●内容の無断転載、無断改変、一部抜粋しての利用はおやめください ●その他、使用に関するご質問はお問い合わせください
本田技研工業（株）安全運転普及本部 TEL:03(5412)1736

Q 1 解答 ②追突

<解説>

平成 24 年の交通事故件数（66 万 5138 件）を事故類型別にみると、最も多い事故類型は車両相互の「追突」で 34.8% を占めており、平成 23 年と比べて 0.6% 増加している。追突事故を避けるためには、前方をよく観るのはもちろんのこと、前車との車間を十分にとっておく必要がある。この場合、車間距離ではなく、車間時間 2 秒以上を目安にすると、走行速度に応じた、一定の走行空間を確保することができる。

●平成 24 年の事故類型別交通事故件数（構成率）

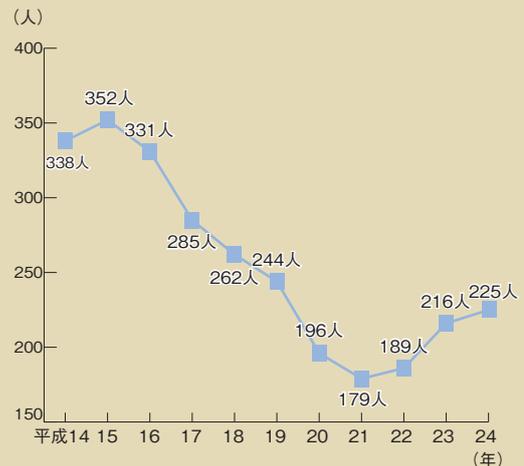


Q 2 解答 ④3年連続で増加した

<解説>

平成 24 年の高速道路における交通事故は発生件数および負傷者数とも平成 23 年と比べて減少するも、死者数は 3 年連続で増加した。高速道路では運転が単調となるため、運転者は注意力が散漫になりやすいと言える。被害程度別・法令違反別にみると、前方不注視が各被害程度（構成率：死亡 46.4%、重傷 39.2%、軽傷 44.1%）で多数を占めていることから、運転者は常に前方や数台前の交通状況に注意を払って予測した運転をする必要がある。

また、高速道路では一般道路に比べ速度が高いため重大事故につながりやすい。長時間高速道路を運転していると、速度感覚がにぶって、自分が思っている以上に速度が出ている場合があることに注意してほしい。また、疲れる前に休憩し、常に運転に集中できるようにすることが必要だ。



●高速道路における交通事故死者数の推移（平成 14～24 年）

※警察庁資料

Q 3 解答 ②約 65%

<解説>

平成 24 年 10 月 1 日から 10 日にかけて実施された、警察庁と JAF（（社）日本自動車連盟）との合同による「シートベルト着用状況全国調査」によれば、高速自動車道等における後部座席同乗者のシートベルト着用率は 65.4% で前年より 1.9 ポイント上昇した。

警察庁の資料によると、高速道路ではシートベルト着用者率（着用死傷者数 ÷ 死傷者数 × 100）が高くなるにつれて、車外放出死者は減少し、シートベルト着用者率が低くなるにつれ車外放出死者は増加しており、これはシートベルト着用が死亡事故抑止に効果的であることを示している。自分自身や同乗者の命を守るためにも全ての席でシートベルトを着用する必要がある。

※調査は一般自動車道全国 779 カ所、高速自動車道等全国 104 カ所で、「営業用プレートの車両、外部に荷台を有する貨物車（含む軽四貨物）」を除く車両に乗車している人を対象としている。

[使用上の注意]

●営利目的での利用はおやめください ●内容の無断転載、無断改変、一部抜粋しての利用はおやめください ●その他、使用に関するご質問はお問い合わせください
本田技研工業（株）安全運転普及本部 TEL:03 (5412) 1736